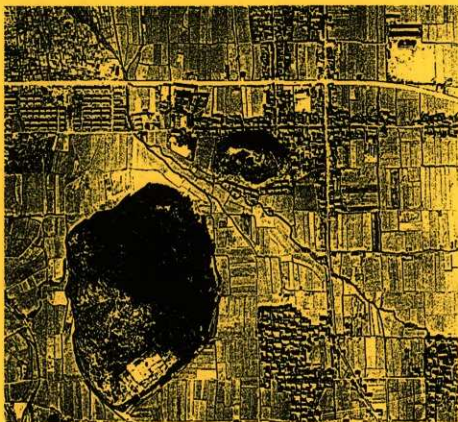


太子山南麓遺跡 第3次調査

—太子町立西中学校校舎改築に先立つ埋蔵文化財確認調査—



1999年5月

太子町教育委員会

例言

1. 本書は、太子町立西中学校校舎改築に先立ち兵庫県揖保郡太子町立岡字山畑 207 番地において実施した埋蔵文化財確認調査の概要報告書である。
2. 調査は、平成10年3月27日～3月31日にかけて実施したものである。
3. 調査は、揖保郡太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、海野浩幸が担当した。
4. 調査に当たっては、有限会社三宝建設、太子町シルバー人材センターの協力を得た。
5. 本書で示す座標は、国土座標第Vを基準とした。
6. 基準点測量は、喜多村測量株式会社に委託した。
7. 整理に当たっては、井上道子、岩村千穂、改発法子、中村豊子、藤井昭子の協力を得た。
8. 本書の執筆・編集は、三村修次、海野浩幸が行なった。

本文目次

例言

調査に至る経過	1
調査の概要	1
まとめ	2

挿図目次

第1図 調査位置図	1	第3図 No.3トレンチ実測図	2
第2図 調査区平面図	1	第4図 周辺遺跡分布図	3

図版目次

図版 上 調査地	
中 No.1トレンチ	
下 No.3トレンチ	

太子山南麓遺跡 第3次調査

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町立岡山畑 207 番地

2. 調査機関

兵庫県揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課

三村修次 海野浩幸

4. 調査期間

平成10年3月27日～3月31日

5. 調査面積

32㎡

6. 記録作成

調査区域図 (1/500)、遺構平面実測図 (1/20)

土層断面実測図 (1/20)、国土座標記録

写真記録 (モクロム/カラー 35mm)



第1図 調査地位位置図

(国土地理院「網干」1:25,000)

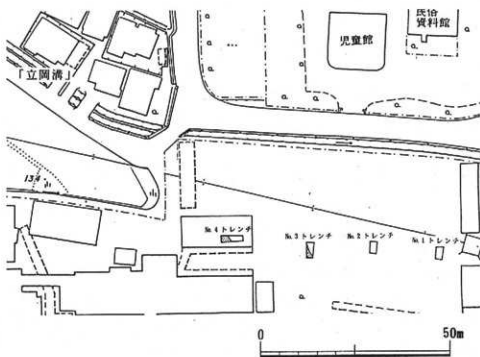
7. 調査に至る経過

太子町立西中学校の校舎改築工事が計画され、同校は周知の遺跡である太子山南麓遺跡内に所在し、また西方には太子山南麓遺跡第2次調査で確認された『船塚遺跡』が隣接することから、遺構の状況及び遺跡の広がり把握するために確認調査を実施することにした。

8. 調査の概要

調査は2m×4mのトレンチを4箇所設定して実施した。調査地は現在テニスコートとして使用されているため、表土及び盛り土部分を重機掘削の後、人力掘削で遺構面の検出を行なった。

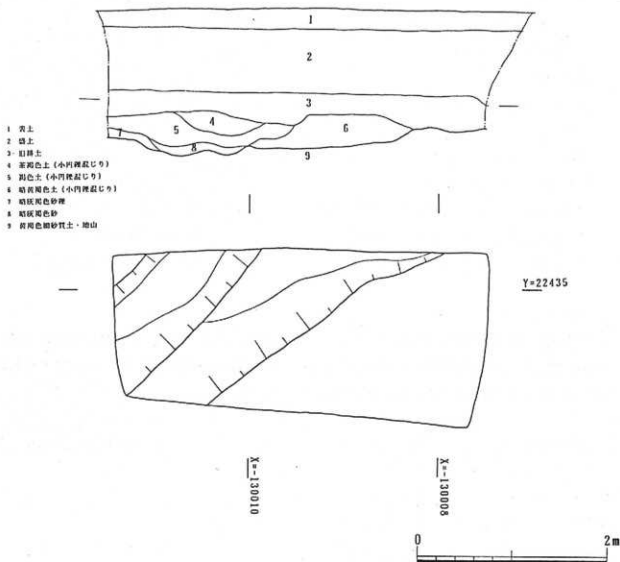
基本層序は、上層から80～90cmの表土及び盛り土、20～30cmの旧耕土で黄褐色細砂質土地山となっている。



第2図 調査区平面図

遺構としては、No. 3 トレンチで北西から南東方向に走る溝と、No. 4 トレンチで同方向に走る溝の東肩部を検出した。No. 3 トレンチで検出された溝は幅1.7m、深さ40cmを測り、断面は浅いU字状を呈する。

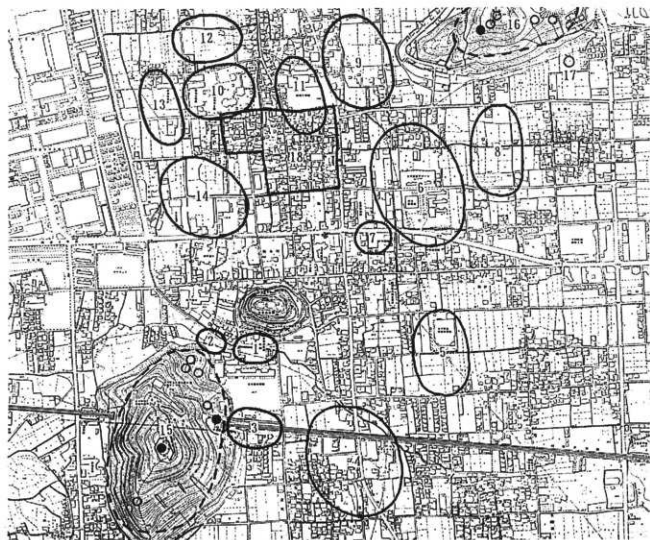
遺物については、各トレンチあわせて10点足らずの須恵器、土師器の細片が出土しただけで、実測図化出来るものはなかった。また溝に伴う遺物は出土しなかった。



第3図 No. 3 トレンチ実測図

9. まとめ

今回の調査では、太子山南麓遺跡および船塚遺跡に関連する遺構は検出されなかった。No. 3 トレンチで検出された溝については、遺物が出土しなかったため時期は不明であるが、中世荘園「弘山荘」の主要灌漑水路である「立岡溝」にあたる現在の用水路（北西から南東方向に流れて来たものが、現在は調査地の手前で東方向に流れを変えている。）の延長線に一致し、同溝の本来の流路の可能性を指摘することができる。今後、検出溝の性格や時期等の問題について周辺部の調査が必要であろう。



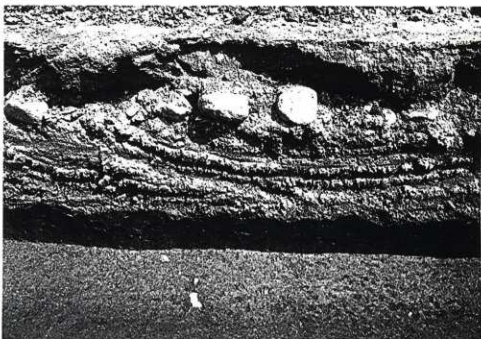
第4図 周辺遺跡分布図

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1. 太子山南麓遺跡 | 7. 船・石田遺跡 | 13. 斑鳩寺西遺跡 |
| 2. 船塚遺跡 | 8. 東保・高田遺跡 | 14. 斑鳩寺南遺跡 |
| 3. 立岡遺跡 | 9. 五反畑遺跡 | 15. 立岡山古墳群 |
| 4. 立岡東遺跡 | 10. 斑鳩寺遺跡 | 16. 東保山古墳群 |
| 5. 東南遺跡 | 11. 斑鳩小学校遺跡 | 17. キツネ岩遺跡 |
| 6. 船遺跡 | 12. 斑鳩寺北遺跡 | 18. 船構 |

調査地区
No. 1～3 トレンチ
(北から)



No. 1 トレンチ
(西から)



No. 3 トレンチ
(北から)



